

令和5年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <最終評価>

1回答…より肯定的回答

1+2回答…肯定的回答

重点事項	内容	評価の観点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定			
				1	%	1+2	%
1 学力向上	(1) 授業力向上	【生】授業がわかりやすい。 【保】わが子は授業がわかりやすいといっている。 【教】授業中に、生徒を褒めたりアドバイスをしたりしている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B D A	39 15 56	A C A	90 71 100
	(2) ICT機器等の活用 ★町共通	【教】ICT(大型TVやタブレット)を活用し、学びを深める指導を行っている。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	A	52	A	89
	(3) 家庭学習の充実	【生】自分で計画を立てて勉強している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	35	D	67
<評価>	・生徒がやろうとしている状況を褒め認めるなど、個別指導の充実により、生徒が授業で「わかった、できた」と成功体験を実感できるよう共通実践を行っている。今後も継続的な共通実践により、生徒の学力向上につなげたい。						
2 生徒指導の充実	(1) あいさつの定着	【生】家庭や地域で自分からあいさつしている。 【教】家庭や学校でしっかりあいさつすることを指導している。	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	D D	56 36	B C	91 89
	(2) 無言清掃の徹底	【生】無言清掃に取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	41	B	85
	(3) 人間関係づくり	【生】学校へ行くのが楽しい 【生】学級は居心地がよい 【教】生徒間や教師との人間関係が温かなものになるよう、学年・学級の充実に努めている。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B C B	53 48 50	B C A	90 89 96
	(4) いじめの根絶	【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ふ。	A 90%・95%以上 B 80%・90%以上 C 70%・85%以上 D 70%・85%未満	C	71	A	95
<評価>	・挨拶については、少しずつ良くなっている。 ・いじめに関する繰り返しの指導をしているが、「いじめはいけない」と言い切る生徒の割合が7割強である。「どちらかといえばそう思う」も含めると9割を超えるが、「そう思う」の生徒が100%になることを目指し、繰り返し指導を行っている。						
3 信頼される学校づくり	(1) たより、HPの充実	【保】学校は子どもや学校の情報提供を適切に行っている。 【保】学校からの情報(たより、HPなど)をよく見ている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D D	43 33	A B	91 85
	(2) 小中連携した英語教育 ★町共通	4技能を3年間で系統的に育成できているかの指標の一つとして、3年生時の英検3級以上の取得者数を追跡調査していく。	A 3級以上 35%以上 B 3級以上 30%以上 C 3級以上 25%以上 D 3級以上 25%未満				
<評価>	・前期と比較すると、「そう思う」、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の数値はやや増加した。今後も学校の教育活動について保護者、地域への情報発信に努めていく。						
4 教員の 人材育成	(1) 若プロ	【教】若プロ研修の内容が充実している。(ミニOJT研修、メンターとの懇談等)	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D	37	A	100
<評価>	・A評価(そう思う)と回答した教員が微増した。						
5 多忙化改善に向けた取組の推進	(1) 時間外勤務の縮減 ★町共通	【教】時間外勤務時間が80時間を超える教職員の割合 ※学期ごとの割合で評価	A 1学期35%以下 2学期25%以下 B 1学期40%以下 2学期30%以下 C 1学期45%以下 2学期35%以下				1学期 A 25.0% 2学期 A 12.4%
<評価>	・昨年度と比較して、1学期平均は2.5ポイント、2学期平均は7.8ポイントそれぞれ減少した。 ・今後も業務の進捗状況等を注意深く見守りながら、指導・支援に努めていく。 ・来年度に向けて、校務分掌組織の見直しによる業務の平準化を進める。 ・年間の業務を見て、時期の集中を防ぎ、多忙感軽減の取組を継続させる。						